

平成27年

季刊

春季号

Vol.53

亞東



新春互礼会講演会



一般社団法人亞東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら發起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二十七年 春季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷	二頁
目次・協会役員名簿	三頁
一人一人が民間大使として	四頁
私と野球と柔道とレスリング	六頁
平成二十六年年度講演会（継続事業①）	七頁
平成二十七年 一般社団法人亜東親善協会 新春互礼会を開催	一一頁
林錦漫先生百壽を祝う会	一三頁
平成二十六年年度社会見学会（継続事業②）	一三頁
お知らせ	一五頁
編集後記	一五頁

平成27年4月10日現在

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長（理事以外）	1名	玉澤徳一郎							
参与（理事以外）	1名	橋本 靖男							
会長（代表理事）	1名	大江 康弘							
副会長（理事）	4名	張 建国	張 碧華						
		山本 順三	千葉 健司						
専務理事	1名	崎谷 秀彦							
業務執行理事	張 建国	（副会長兼務）							
業務執行理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康								
業務執行理事	池本 好伸								
理事	19名								
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子				
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志				
森 康郎	笹岡 恭亮	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士	小山 博史				
監事	2名	李 ハロルド	鈴木 慶一						
事務局		崎谷 秀彦							
		李 孔晔							

一般社団法人 亜東親善協会

一人一人が民間大使として

会長 大江 康弘

皆さんお元気ですか。

いつも私共の亜東親善協会に対しまして、温かいご指導とご協力を賜っております事心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、二月の新年互礼会には台湾とも交流が深い日本を代表する大俳優 宝田 明先生に講演をしていただき 皆さんに大変喜んでいただきました。

宝田先生には心より感謝と御礼を申し上げたいと思います。

又、その際に宝田先生から協会に入会していただけるとの事で先日、入会いただいた事もご報告申し上げます。

宝田先生、本当にありがとうございます。今後共、宜しくお願い申し上げます。

又、昨年一二月の忘年会において講演をいただきました柔道家 正木照夫先生には今回記念投稿をお願いしました。あらためて御礼を申し上げます。どうか皆さん、ご一読下さい。「石の上にも三年」という言葉が日本にはあります。おかげさまで協会が一般社団法人に移行して本年は三年目、いよいよ基礎作り、土台作りの一つの大きな節目の年を迎えました。これからはもっと幅広く、ウイングを広げて私達の行動を理解し参加してもらえような体質や体力を作っていかなければなりません。

先日、中華民国大阪総領事館の蔡明耀総領事、又 大阪中華総会会長 洪里勝信会長にお会いし、私共の協会も東京中心の活動の範囲を広げて、関西 西日本に会員を募り西日本支部（仮称）のようなものを作りたいと お願いし、ご協力いただけることになりました。

これからは東京も関西も、留日の皆さんに もっと参加していただき、次の新しい時代に向けての中華民国台湾と日本の友好・親善の形を作り上げていかなばならないと思っています。そのスタートとして私は関西支部、西日本支部を立ち上げて東京と連動してやっていきたいと思っています。どうか皆さんのお力を貸していただきたいと思います。

さて、本年二月に私は自民党二階俊博総務会長に同行し、韓国に行つて参りました。二階会長主催による民間レベルの一四〇〇名参加の『日韓国交回復五〇周年記念行事』の訪韓でした。

三日間の滞在中、二階会長が長年培ってきた人脈、人間関係における様々な要人や組織の皆さんとお会いし、あらためて議員外交と共に、民間外交の重要性及び必要性を強く認識して帰ってきました。

今、日本と韓国は決して良い関係とは言えません。又、隣りの中国ともそうではありません。政治の現場はいろいろな溝や壁や垣根を時には作ります。その事は仕方ありません。政治とはそういうものです。

ただ、いつまでもそのような問題を抱えたままが良いのか?という事です。

日本・中国・韓国にとつて、どうして変えられない事実はお互いに家のように引越しや、住居を替えるという事ができないという宿命です。

ならば、どうすべきなのか?!はそれぞれの国の指導者や国民がしっかりと向き合つて真剣に考えていかねばなりません。我々がこんな状態を続けて、喜んでいる人達や国を放つておくわけにはいかなないのであります。



様々な政治が作つた齟齬を埋めてくれるのが地道な日々の活動による民間の皆さんの力であるという事を、今回の訪韓で改めて痛感しました。同じ事は、これからの中華民国台湾と日本にも言えると思います。

幸い、先人や先輩の皆さん、又 両国の国民の皆さんのたゆまぬ努力ですばらしい関係を維持してきています。



しかし、十九世紀の「英国首相パーマストン」が「国家には永遠の友好や同盟 又、敵対関係はない あるのは国益だ」と喝破した言葉を我々はしっかりと肝に銘じ胸に刻みながら行動しなければなりません。

私は、そのためにも一人一人が、大好きな国 中華民国台湾と又、大好きな日本の代表として「民間大使」の気持ちで日々、行動してもらえれば すばらしい二国間の関係を続けていけると確信しています。

皆さん、やろうではありませんか!私共の協会は、その先頭に立つて民間外交をこれからも続けていきたいと思つています。

どうか今後共、会員や皆さんのご協力とご理解をお願い申し上げます。

加油!

私と野球と柔道とレスリング

拓殖大学 客員教授 正木 照夫



《講師プロフィール》
生年月日…一九四七年一月二〇日
出身地…神戸市生まれ
経歴…全日本柔道選手権一〇回出場
六九年全日本学生選手権無差別
で優勝。
寝技強化のため取り組んだレス
リングでは、六八年全日本学生
選手権フリースタイル優勝・六九
年全日本チャンピオンとなる。
七二年のミュンヘン五輪では柔
道とレスリング両方で代表候補
となる。

私は少年の頃は野球に打ち込んでいました。中学時代は野球一筋でした。そして高校入学時より柔道部に入り受け身をみっちりやらされた。それが基本とは全く知らずにやっていたのが今日に役立っている。そして大学入学と同時に柔道とレスリングの日々が続き、文字通り格闘技一途でした。怪我らしい怪我もなく、やってこられたのは、やはり基本をしっかり身につけてきたのがよかったです。人生はもとより何でも基本でしょう。

格闘技は安全と精神的な強さを養えるスポーツだと確信しています。日本古来の柔道はいろんな変遷を経て今日に至っています。昨今の身体的な成長に比べて、体力が劣っている少年が多い。そして、少子化が大いに気になります。現在の〇才〜一四才の人口比率は一番少ない、この年齢幅が将来の

日本のスポーツを担っていくことになる。もちろん経済成長にも影響を及ぼす、近年の少子化とスポーツそして、経済力も含めこういった課題はまだまだ解決してません。やはり政治の力を発揮しないとダメになる。日本の人口が一億二千七〇〇万であり、東京オリンピックは五年後に迎える事になる。そのとき、今の大学一年生あるいは競技によっては中・高生が中心になると思う。東京オリンピックを見極めていろんな競技団体が力を注いでいる。自国開催のオリンピックはやはり国民が元気になることには間違いない。しかし東京オリンピック後、一〇年後というのは今の〇才〜一四才の幅の人達がオリンピック選手になる。抜本的な改革をしない限り、人口減のためスポーツ王国日本は崩壊することになる。柔道人口も当然のことながら減少しています。

又、格闘技の種目は、やはり警戒心が働き子供達には受けとめにくい面がある。それは恐さ、要するに危ないと言わざるを得ない昨今です。いかに安全に指導できるかが広く伝わらないといけない。残念ながら、柔道事故が多いと言わざるを得ない。指導者のあまりにも、希薄なためが原因である。レスリングが人口増になっているのは、レスリング協会挙げでの努力が実っていると考えられる。日本の武道は未来のためにも日本人として伝えるべきだと思う。礼法、そして相手を敬う作法いづれを取っても私は精力善用と思います。心身の鍛練も合理的になつていくものと思う。我々は健康が一番

大事ですが、それにはスポーツは欠かせない。生涯スポーツとしてチャンピオンスポーツと国民は自分自身を高めるために是非取り組んでもらいたいと思います。

柔道に限らずスポーツは競技を通じて人間性を育んでいくものです。指導者は選手らの模範にならなければなりません。スポーツ選手は結果を残せば注目をあびます。若くして周囲から持ち上げられて、さまざまな誘惑も増えていきます。そこで、ぐっと自分を戒めなければなりません。私は、常々そう言いきかせてやって来ました。教育の現場でもいよいよ武道必修が復活しました。中学校の武道必修化が平成二四年四月から始まり、柔道も取り入れられた。

柔道には本来、自己防衛の目的がある。組み合う中で「こうすれば相手は動けなくなる」という力学を学ぶ、そして我を知る。先に述べた様に事故防止は必修です。事故は指導者の油断や配慮のなさに起因する。派手な立ち技を見せたり、技に憧れる子供の好奇心をくすぐるような指導は、事故と背中合わせにある。指導者の心を磨くことも武道の本質であると考えます。

平成二十六年年度講演会（継続事業①）

日時 平成二十七年二月一〇日

場所 ルポール麹町

講師 俳優 宝田 明

演題 「俳優として 人間として」
参加人員 八〇名

実は宝田明が風邪で伏しておりまして、私、父親が代わりに参りました。（笑）

大江会長のご紹介にあずかりまして、大江様とは二〇数年前に玉置和郎様の選挙の応援で街宣車の上で、一日駆けずり回っておりまして。その時の秘書をしておりまして、大江会長とのお縁がありました。それ以来のお付き合いで、今日この会にお声を掛けて頂きました。数年前に山本周五郎原作の「赤ひげ」（黒澤明監督で三船敏郎主演）を、ミュージカルに出演いたしました。ご多忙の中、大江会長にお出でいただきまして：：久しぶりでございましたが、現在まで親交を深めております。

政治のことばかりでなく、芸術、文化に関しましても大変、大江会長は御造詣が深く、我々にとっては「ありがたい」の一語につきるところであります。

ところで、過日、台湾の松山空港を離陸した飛行機が数分後に川に墜落をいたし



まして、大勢の乗客の方々、特に台湾の方が命を落とされまして、哀悼の意を表し皆様とご冥福をお祈り致したいと存じます。

一九四九年でございましたか：昭和二四年、戦後四年経った時で焦土と化した日本。

経済も人身もまだまだ落ち着いていないそんな状況の中、二五年に朝鮮戦争が始まり、あれは特需景気でありましたがそのお陰で経済・産業が右肩上がりとなった。というような状況の一年前、まさに民主主義とそれから、自由経済を基盤として、アジアの民族が手を取り合って、長く友好親善を深めよう、それも民間外交的な立場で、ということでは華南俱樂部が産声を上げたのはご案内の通りで：。

それから二二年後の昭和四六年、一九七一年のことでございますが、諸先生方、また在日の華僑の方々のご尽力また、物心ともにご援助頂いて、それで一般社団法人の亜東親善協会が目出度く誕生して、以来、今年で六六年に相成りましようか、その目的、事業内容をずっと貫きながら歴代の会長の下に歩んでこられたことはご同慶に耐えないところであります：多くの日本人、または中華民国台湾の方々もよくご存じのことです。

台湾といえれば日本に一番近い、また親しい国でありまして、私も時々、台湾に参りますけれども、なにやら明治、大正、昭和初期くらいの日本人らしいとでもいいましようか、

そこに日本人がいるのではないかと思うくらいに、今の日本人よりはるかに日本的な親日家の方々か沢山いらつしゃいます嬉しいうりでございます。

大戦が終わった後、蒋介石総統は、いち早く戦争賠償というものを放棄して、日本の経済復興に大きく寄与しましたのも、あの時の蒋介石総統のご決断があつてのことだと思ふくらいに慈悲深くありがたいものでした。

私は、昭和二八年に東宝の第六期ニューフェイスとして合格。俳優の第一歩を踏み出しました。第一期生は、三船敏郎、伊豆肇、若山セツ子、久我美子さん、私の同期生は、岡田眞澄、藤木悠、河内桃子（この三人は、亡くなられました。）そして佐原健二君でした。

第三期生に小泉博、岡田茉莉子さん、五期には、亡き平田昭彦さんがいらつしゃいました。撮影所の中の演技研究所で皆さん一年間の訓練を受けていたのです。

三船さんは、中国青島で、写真屋さんの息子さんでしたが、戦争に行き、復員して軍服のまま受験し、見事に落とされまして、審査委員長の山本嘉次郎監督が助手の黒澤明さんに「先程の男、役者として使えるかもしれんな。呼んで来い。」



と言って、みんなで手分けして探しましたら成城学園の駅の階段を、肩の力を落として歩いていたら三船敏郎を見つけ、撮影所に連れ戻したそうです。

その後、黒澤明監督の「酔いどれ天使」で、役者として見事なデビューを果たし、「七人の侍」を初め、数々の名作を残し、世界的なスターとして頑張つて来られました。が、「蜘蛛巣城の砦」の作品を最後に黒澤と三船のコンビは解消され、それぞれの道を歩まれました。

東宝には多くの名監督がおられ、また、俳優も二〇〇名近くおりました。

池部良、森繁久彌、小林桂樹、小泉博、三木のり平、加東大介、加山雄三、夏木陽介、久保明。女優陣では、原節子、高峰秀子、司葉子、白川由美、星由里子、草笛光子、新珠美千代、淡島千景、八千草薫さん等が東宝映画を支えていました。

今は亡き、森繁久彌さんは、満州新京の放送局員で引き揚げ者です。三船さん、森繁さん、私で忘れていた中国語を交えながら、雑談をしたものです。

李香蘭さんは、戦時中、戦意高揚映画で、長谷川一夫さん、上原謙さんと組んで、映画出演しておりました。学校から動員でハルピンの映画館に観に行ったものです。

私が東宝に入って三本目。夢にまでみた主演の作品が回ってきました。

「東宝が社運をかけて作る映画だ。成功すればシリーズ化

していききたい。頑張ってくれ。」と撮影所長。真っ赤な台本に黒い墨で書かれた三文字は、「ゴジラ」でした。昭和二九年のことです。「日本は八月六日、九日と、広島、長崎に原爆による、世界唯一の被爆国であり、その九年後にまたもやビキニ環礁で操業中の第五福竜丸がアメリカの水爆実験で二度目の被爆を受け、尊い命を失ってしまった。核の恐怖を世界に伝えられるのは日本しかない。そのメッセージを映画を通じて訴えたい。」というのがこの映画のコンセプトであり願いでした。

昭和二九年十一月三日、全国の東宝系映画館で封切られ、当時日本の人口は八八〇〇万人でしたが、その十一%にあたる九六一万人がこの映画を観たのです。原爆反対というメッセージが国民に支持された結果だと思えます。

私もここ数年、アメリカの大都市での「ゴジラフェア」に出かけ、多くの方々と話し合い、サイン会等、三日間の催しに全米から一万人位集まってくる程の一大イベントです。今年も四月にボストンに出向きます。

今やゴジラは世界の大ヒーローとなっており、日本では、一九五四年から二〇〇四年までの五〇年間に二八本、そのうち私は六本出演いたしました。また、一五年前、アメリカで第一作が作られ、昨年はアメリカの第二作が世界中で大ヒットし、六〇〇億円の興行収入を上げ、第三作も数年後に作られるそうです。御本家である東宝も、今年ゴジラの製作に入

るそうで、六〇年を経た今日でもゴジラは見事に生き続けているのです。

昭和三〇年代から四〇年代に掛けて私は数多くの映画に出演してきました。

特に思い出に残る作品に、香港の人気女優の尤敏（ユウミン）さんとの共演があります。東和映画の社長、川喜多長政さん、東宝の藤本眞澄プロデューサーが、第二の山口淑子を育てようと、私と組んで映画を撮ることにしました。「香港の夜」「香港の星」「ホノルル・香港・東京」と毎年一本のペースで製作され、大ヒットしました。

第四作の企画が進められているときに日本に来た尤敏さんから、香港で或る男性にプロポーズされたとの話を聞き、その男性の素性や家柄を聞き、私は幸せな結婚をすることを勧めたのです。彼女は結婚し、香港でも実業家として成功し、私との交友も続きましたが、一五年ほど前に亡くなられました。大切な友人を失ってしまいました。

また、私は台湾の映画にも出演し、多くの友人との交流がありました。

張美謠さんは、本名を張富枝さんと云って実に素直な美しい女優さんでした。

台湾の松山空港の近くにある中泰賓館のメインに大きなレストランシアターがあり、そのオーナーが宝田明のディナーショーをやるまではレストランをオープンしないと云わ



れ、数度の出演交渉があり、やっと実現し出演したこともありました。昭和五四年、私は宝田芸術学園という若き俳優を養成する学校を開きました。

開校一年程して、亜東関係の方から、台湾の唯一の芸術系学校、国光劇藝実験学校の方が私共の学校を視察したいとの連絡が入り、

訪問されました。私も台湾を訪問して良く協議し、昭和五六年（中華民国七〇年九月）台北にて文化交流と民間友誼の強化及び、両校の教育上の向上を計る為に姉妹校を締結したのです。この学校は、国防部の直轄で、王昇上級大將がトップにいらっしゃいました。

昭和五六年秋、私共の第一期卒業生四〇名を連れて訪台し、姉妹校締結親善公演を、台北市国父記念館で三回、高雄市中でも二回、両校の合同公演をいたしました。

特に私の方から昼の部の公演の全てを、陸海空、三軍の将兵に観て頂こうと提案をさせて頂き、多くの将兵が観に来られました。その後、姉妹校の関係は六年続きましたが、彼等の事情により解消されております。

また、俳優の葛香亭先生とも親交を頂き、私は、台湾パパとも義父とも呼んでお付き合いをして参りましたが、残念な

がら他界されました。

華南商業銀行、董事長、楊基栓先生のご紹介で、李登輝副
大統領にお目にかかるべく、総統府をお訪ねしました。

流暢な日本語で「宝田さんの映画は、若い頃よく観ました
よ。」「私は、山岡莊八先生の徳川家康全集を読んでおりま
す。」とお話になりました。

総統府で撮った李閣下との写真が今は私の宝物となっております。
ります。

一時、病氣治療の為、日本にて診察を受けたとのこと、
がありました。一部勢力の入国反対の声があったことは、
その心なき声に多くの日本人が痛みとご同情を禁じ得ません
でした。ご高齢になられたと存じますが、健康にてお過ごし
下さることを、心より御祈念いたします。

私は、昭和二十一年末に満州ハルピンより引き揚げて参りま
したが、戦後外地での苦勞は、想像を絶するものがあり、未
だに戦争の恐怖や悲惨さが心の一部に深く焼き付いています。
また何かの機会にその当時のお話をさせて頂く日が来ると
思います。

私達の年代は、それを伝えていく責務があるものと信じて
おります。

六六年前に誕生しました、貴協会及び、会長初め各理事、
役員の方々の益々のご奮闘とご発展をお祈り申し上げます
頂きます。

(終)

平成二十七年 一般社団法人亜東親善協会

新春互礼会を開催

日本と東アジア諸国、とりわけ中華民国（台湾）との交流
と友好親善増進に尽力している「一般社団法人亜東親善協
会」（以下、亜東親善協会）は、「平成二十七年互礼会」を二
月一〇日夜、都内のホテルで開催した。

互礼会には衆参両院の国会議員をはじめ、日本で台日友好
促進に尽力している亜東親善協会の各会員ら多くの関係者が
出席した。台北駐日経済文化代表処（以下、駐日代表処）か
らも徐瑞湖・副代表、余吉政・副代表らが出席した。同夜の
会は二部構成となっており、第一部は、台湾の映画界のみな
らず、台湾の政財界とも深い交流があり、中国語の堪能な俳
優の宝田明氏が「俳優として 人間として」と題し講演を



大江会長



徐副代表

行った。

亜東親善協会の大江康弘会長は互礼会のあいさつの中で、台日関係が良好であり、このような関係継続には今後とも会員各位の力が必要であると強調し、「外交の基本は民間外交である。皆さんの変わらない日々の交流の積み重ねが、両国間の友好関係を築いていくと感じている」と述べた。

来賓代表として登壇した徐・駐日代表処副代表は、あいさつの冒頭で、亜東親善協会による台日関係のさらなる推進への尽力および日本で学ぶ台湾からの留学生に対するサポートに感謝の意を表した。さらに、二〇一四年に台日双方間を往来した旅行者数が四六〇万人であったことを紹介し、これは二〇一三年の三七〇万人から見ると二〇％増であり、今年の旅行者数が昨年の一〇％増でも五〇〇万人突破は夢ではないと強調した。

また、経済面において、台湾は地域経済統合への参加を強く望んでおり、台湾のTTP（環太平洋パートナーシップ協定）およびRCEP（東アジア域包括的経済連携）への参加、日本とのFTA（自由貿易協定）締結に向けた取り組みに、同夜出席した日本の国会議員をはじめ多くの関係者の協力を要請し呼びかけた。

「公益財団法人交流協会」（以下、交流協会）の小松道彦・総務部長は、「日台関係は非常に順調に発展している」と述べ、台日間の投資協議、オープンスカイ（航空自由化）協議、



「亜東親善協会」の新春互礼会が盛大に開催

述べた。

台湾生まれの大野功統・元衆議院議員はあいさつの中で、「日台関係は大切にしなければならない。台湾との距離をもっと近づけようではないか」と出席者に呼びかけた。続いて、根井洌・一般財団法人台湾協会理事長により乾杯の音頭がとられ、二月一九日の旧正月を前に、新春を祝う和やかな交流の会となった。

漁業協議の各調印、さらに昨年は、台湾の亜東関係協会と日本の交流協会との間で「観光事業協力覚書」、「原子力安全規制情報交換覚書」、「特許手続微生物寄託覚書」、「出入境管理協力覚書」といった四項目の覚書に締結したことなどを紹介し、「今年も色々な面で努力していきたい」と

《二〇一五年二月一二日》
（台湾週報より転載）

林錦漫先生百壽を祝う会



平成二十六年年度社会見学会（継続事業②）

日時 平成二十七年二月二十三日

場所 学校法人 横浜中華学院・外

参加人員 二十三名

大江会長ら亜東親善協会会員が横浜を訪問

二月二三日午前、当協会の大江康弘会長をはじめ副会長、理事、監事、会員ら二〇名あまりは、横浜市中区にある台北駐日経済文化代表処横浜分処に粘信士・処長を表敬訪問し、台日関係について意見交換を行い、横浜分処の実務内容など

についても理解を深めた。

粘処長は一行の訪問に、「亜東親善協会会長の横浜分処訪問は初めてであり、非常に光栄だ」と歓迎の意を表すと共に、「当分処は中華街のお膝元にあり、いつも横浜の華僑総会や華僑の各リーダーからの応援をいただいている」と述べた。

続いて開かれた懇親会の中で、粘処長は「中華民国（台湾）と日本との親善関係の力を拝借し、より一層双方間の絆を深めていきたい」と述べた。大江会長は、「外交の基本はやはり民間外交だ。それぞれ皆さんが民間大使になり、責任を担っていただいたならば、すそ野がさらに広まっていくのではないだろうか。これをしっかりと受け継いでいく土台を我々は作っていかねばならない」と強調した。

その後一行は、学校法人横浜中華学院を訪れ、校庭で同校の中学生および高校生の有志による南方獅子舞のパフォーマンスで歓迎を受けた後、馮彦國・校長から学校についての一般的な紹介のレクチャーを受けた。この中で馮校長は、台湾、日本、中国大陸、東南アジアからの児童・生徒が一つのクラスにしていることから、とりわけコミュニケーションを大事にし、楽しく学べる良好な環境作りをしていることなどの説明があった。

続いて、中華民国留日横浜華僑総会（以下、横浜華僑総会）を表敬訪問し、施梨鵬・会長および同総会の関係者をはじめ、横浜台湾同郷会の鄭尊仁・会長ら横浜の華僑界関係者による

歓迎を受けた。施会長はあいさつの中で、亜東親善協会の訪華団一行が昨年一〇月に台湾を訪れ、馬英九總統と会見したことにも言及し、「亜東親善協会の皆さんは、台日の経済文化、観光面で大きく貢献されている。これからも共に手を携え、さらなる台日友好の関係促進を切に願っている」と述べた。

当協会の張建國・副会長は、「横浜中華街は、日本全体の華僑社会にとっても大変大事な役割をしている。私共は今後とも中華民国（台湾）と日本との架け橋になっていきたい」と述べ、この目標のさらなる実現のために横浜華僑界各関係者の支援を呼びかけた。その後、横浜華僑総会や横浜の華僑界関係者との懇親会も行われ、施会長や馮校長はあいさつの中でいずれも「台日間の友好の懸け橋となっていきたい」と強調した。

今回の横浜訪問は、当協会の理事会において、張建國副会長と程金笙業務執行理事が提案し実現したものである。当協会は台日交流の様々な場で、粘・横浜分処長、横浜中華学院関係者、横浜華僑界各位と長年にわたる交流はあったものの、これまで一度も正式に訪問をしたことがなかった。この日の横浜訪問では、関帝廟や媽祖廟にも説明を受けながらお参りする機会にも恵まれ、各訪問先の活動などについて、更なる認識を深めると共に、実際に訪問し交流することにより築かれる、民間友好の絆を改めて深く感じるものとなった。



お知らせ

※本年度第一回定例理事会を開催

日時 平成二十七年四月十四日（火）

場所 砂防会館三階会議室

※第三回「平成二十七年通常総会」の開催

日時 平成二十七年五月十四日（木）

場所 ルポール麹町

※平成二十七年実施予定事業については総会終了後お知らせいたします。

編集後記

本年度の社会見学会は趣向を変えて旧正月に当る春節を迎え寿ぐ横浜中華街を訪れる企画をたて、二月二十三日（月）に実施した。

横浜中華街は百五〇年の歴史を有する日本最大の中華街で二月十九日（旧正月元日）から元宵節の三月五日までの間「春節祭」が行われます。

訪問先

- ・台北駐日経済文化代表処横浜分処
- ・学校法人横浜中華学院
- ・留日横浜華僑総会・外

今回の訪問で多くを学び会の目的は達成できたと思う。尚、詳細は本文に掲載した。

表題【亜東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 平成27年 春季号 (No.53)

発行日 : 平成27年4月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

発行人 : 大江康弘

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。

日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。

台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。